

歯科医師の皆様へ

TACs という頭痛を知っていますか？

TACs(タックス)と呼ばれる頭痛では、歯痛や顔面痛が主訴になることがあります。
 TACs(三叉神経・自律神経性頭痛；Trigeminal Autonomic Cephalalgias)の患者は、歯科・口腔外科を受診するので、不要な歯科治療を行わないよう注意が必要です。

TACsは片側顔面の発作性疼痛と、患側の自律神経症状(流涙・鼻閉・鼻漏など)が特徴で、4つのタイプがあります。

群発頭痛

【1000人に一人】

目の奥に刺す様な痛みが15～180分持続する。上顎大臼歯部の痛みとすることも多く、患者の34%が歯科を受診し、16%で抜歯が行われている。

発作性片側頭痛

【5万人に一人】

群発頭痛と特徴はほぼ同じだが、治療法が違う。インドメタシンで100%寛解する。

SUNHA(サンハ)【まれ】

短時間持続性片側神経痛様頭痛発作
Short-lasting unilateral neuralgiform headache attacks

三叉神経痛に酷似しているが、カルバマセピンは奏効しないことが多い。第1選択薬はラモトリギン。

持続性片側頭痛

【比較的まれ】

24時間持続する片側の顔面痛+激痛発作で、顎骨骨髓炎や特発性顔面痛と誤認しやすい。



※日本口腔顔面痛学会は、歯科医師へのTACsの知識の普及に努めています。

